

農業委員会だより 第3号

〔編集・発行〕薩摩川内市農業委員会 農業委員会だより編集委員会
 薩摩川内市神田町3番22号
 回(23) 5111(内線5632)

第3号の発行に当たって

農業委員会会長 有村 四男

市民の皆さまにおかれましては、かねてより農業委員会活動にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。さて、現在の農業を取り巻く環境は、農業従事者の高齢化、担い手不足に伴う耕作放棄地の増加、鳥獣被害による離農者増加など、大きな課題を抱えています。

農業委員会においては、農地の「貸したい」「借りたい」総点検活動を展開し、農家への戸別訪問による農地利用のアンケート調査を行いながら、担い手への農地の集積や集約化、耕作放棄地の発生防止と解消、新規参入の促進、農地中間管理事業の推進について、農業委員・農地利用最適化推進委員・事務局職員が一丸となって取り組んでいます。

昨年12月20日、農業委員会では、本市の地域農業発展・振興のため、認定

農業者や農家の声を集約して、農地等利用最適化推進施策の改善に向けた意見書を取りまとめ、市長に提出いたしました。

今後とも、農業者の代表として、農業公社をはじめ農業団体など、各関係行政機関と連携を図りながら、農地利用の最適化の推進に努めてまいりますので、皆さまのご理解とご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

農業者との意見交換会を実施しました

農業委員会活動の見える化を進め、併せて担い手を中心とした地域の農業者の方から直接意見や提案を聞き、日頃の活動に役立てようと、昨年の夏に北さつま農協川内ごぼう部会や39歳以下の若手農業者を中心とした産地農業後継者、女性農業経営士の皆さんと3回にわたり意見交換会を行いました。

意見交換会では、「借りたい農地が

耕作放棄地になっている。耕作可能な状況に戻したいが、個人の努力だけでは難しい。行政の支援策などがあれば、情報提供をしてほしい」「新たに農業を始めたい、規模を拡大したいという場合、どこに相談すればよいかわからない」など、現場で農業に向き合っている方々ならではの具体的な意見や質問をいただき、「各機関が連携して対応するので、窓口はどこでもよい」「窓口も分からない場合は、近くの農業委員に相談してほしい」といった活発な意見交換を行うことができました。



▲産地農業後継者との意見交換会

荒廃農地の解消へ委員も一役



▲草刈り作業の様子(川内地域)

荒廃農地の解消と農地の有効利用を図るため、川内・樋脇・入来・東郷・祁答院地域の農業委員・農地利用最適化推進委員が協力し、それぞれの地域で計5カ所、約1ヘクタールの荒廃農地を選定し、草刈り作業を行いました。昨年11月6日に実施された川内地域の作業では、委員自ら刈払機などを持ち寄り、朝霧の中作業を開始。2時間ほどの作業で、約20アールの荒廃農地が見違えるようにきれいな畑へと変わりました。これらの農地は、今後地元認定農業者などの担い手に貸し付けられる予定です。

今後も、荒廃農地の発生しない環境づくりを重要課題の一つとして捉え、農地パトロール活動で得られた情報を共有しながら、新たな荒廃農地の発生防止に取り組んでいきます。

農家の意向を聞き取る戸別訪問活動を実施しています

全国で少子高齢化が進む中、農家の高齢化による耕作放棄地の増加も深刻化しています。本市でも、約490ヘクタールの耕作放棄地が確認されており、今後も増加することが懸念されます。

そこで、今後耕作放棄地になりそうな農地を早期に把握し、担い手農家に集約するため、市内在住で10アール以上の農地を耕作している約6600世帯の農家を対象に、農業委員19人、農地利用最適化推進委員21人の計40人で戸別訪問活動を実施しています。



▲戸別訪問(入来地域)

入来地域の戸別訪問では、80代女性が、「高齢のため、作れなくなるのが心配。誰かが借りて作ってくればありがたい」と話されていました。こうした農地の情報を農業委員会で集約し、今後、地域の担い手農家を中心に、耕作する方を探すことにしています。

甑島地域で農林水産業の意見聴取会を実施しました



▲意見聴取会(里公民館)

市農林水産政策審議会の委員による意見聴取会が、昨年10月16日、上甑島の里公民館で開催されました。農業委員2人も審議会の委員として参加し、14人の地元農林水産業者代表の方々から「生産物の安定した販路の確保が必要」「霜の心配がない分、風害や塩害対策が必要」といった貴重な意見を伺うことができました。

第14回産業祭&JAフェスタ 農業委員会コーナー大盛況

昨年11月18日、産業祭&JAフェスタが総合運動公園で開催され、晴天の下、ステージイベント、特産品の販売や農業機械の展示、おにぎりの無料配布など、大勢の来場者でにぎわいました。

農業委員会では、日頃の活動状況を知っていただくため、写真展示などのコーナーを設けました。また、農業委員会活動に関するアンケート調査に協力いただいた先着50人の方に、市内の生産者が耕作放棄地を活用して育てたタマネギの苗を1人20本ずつ無料配布したところ、大盛況で瞬く間に無くなりました。

アンケート調査では、「農業委員会の仕事内容が分からない」といった意見もありましたが、「今回の農業委員会コーナーを見て参考になった」「農業

委員会の活動内容が分かって良かった」といった意見も頂きました。



▲盛況の農業委員会コーナー

農業委員会だより編集委員会

- ▼委員長 蒲生原良廣
- ▼副委員長 有馬康夫
- ▼委員 有村四男、別府生次、武田芳久、小園光男、磯道博和、薬師寺しげ子、岩元博徳、徳利忠好、牧田信一、梶原拓二